

風土記の丘の花だより³¹⁶

今、そしてこれから見られる植物(2026年4月11日)

ソメイヨシノはほぼ散り果て、ヤマザクラもピークを過ぎたようです。かわりにカスミザクラがきれいです。谷山家住宅の庭から山の方を見上げたら大きな木があります。万葉植物園にも大きな木があります。ご覧になってみてください。



細くてヒョロヒョロした花茎にたくさんの小さな花を咲かせているキュウリグサをあちらこちらで見ることができます。花茎の先がクルッと丸まっているところもかわいいです。花の色は薄い水色です。名前の「キュウリ」はお馴染みの野菜のキュウリで、この草の香りが、その香りに似ていることから名付けられました。ムラサキ科という仲間の植物で、よく耳にする「わすれな草」などと同じ仲間です。昔「わすれな草をあなたにが」流行りましたね。古いですねえ。



ハランはふつう「ばれん」と呼ばれますが、そのハランに花が咲いています。白いおまんじゅうみたいなものは、そのつぼみです。どちらもかわいいですね。ただ、この花やつぼみはとても見つけるのが困難です。ハランの前に座り込んで、かき分け、かき分け、落ち葉をよけながら、根元を根気よく探してみてください。これは万葉植物園で撮影しました。



園内のあちらこちらでシャガの花が咲いています。アヤメの仲間、ごく薄い水色に黄色のアクセントが入っていて、とても爽やかな花ですね。一輪だけでもきれいですが、この花の魅力は群生してこそその美しさではないでしょうか、今の季節、山道を車で走っていると、日陰の斜面などに群生している光景をよく見かけます。この葉は面白く、葉が縦に半分に折りたたまれています。ということはどちらも裏側ということになりますね。



地面に張り付くように生えるキランソウです。シソ科の草です。ありふれた草ですが、私はこの時期の花だよりでは、いつも紹介していると思います。それほど私にはこの花が魅力的に思えます。強い草で、踏まれても、引き抜かれても毎年生えてきて、こんなに美しい花を咲かせてくれます。別名は「地獄の釜の蓋」らしいですが、意味の分からないキランソウという名前より、別名の方が特徴が表現されていて、分かりやすいですね。

松下